

令和5年度 学校評価書

静岡精華幼稚園

令和6年3月31日

A: そう思う B: 大体そう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

精華幼稚園 教育目標		ひとり立ちする子	自己 評価	取り組み状況 改善策	学校関係者評価	
3 つ の 重 点	1 経験・体験の 幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	【取組・反省】新型コロナが5類に分類されたこともあり、「経験・体験の幅の拡大」を念頭においた様々な活動を実施することができた。熱中症・感染症対策を考慮しながら諸行事を実施した。ほぼ計画どおりの活動を行うことができた。	A	幼児期に様々な経験を積むことは非常に大切なこと。創造性も育まれる。先生たちの努力の積み重ねには頭が下がる思い。今後も大変なことは多いと思うが、子どもたちのために尽力をお願いしたい。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	【改善策】子どもたちの遊びがより一層深まるよう、各行事のねらいを明確にした上で、職員の働き方改革とのバランスを考えて計画する必要がある。	A	
	2 人間関係調整 力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	【取組・反省】各行事の中での「子ども同士の関わりの場」を大切にしながら教育活動を行っている。一人ひとりへのフォローも大切にしている。	A	園を訪れた時も、園児たちが元気な表情でよく声をかけてくれる。今の社会の状況を見てもコミュニケーション力育成は非常に重要。
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	【改善策】現在行っている各種行事の中に「意図的な人との関わりの場」を設定し、コミュニケーション能力をさらに高めていきたい。	A	
	3 聞く態度・聞き 取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	【取組・反省】全職員が常に「子どもの聞く姿勢と聞こうとする意識の有無」にポイントをおき、子どもと接し、また働きかけるよう心がけている。	A	「聞く力の育成」を重点としているのは、精華幼稚園のよさ。先生たちの話真剣に耳を傾けている子どもたちの姿を見かけることが多い。
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	【改善策】本園の子どもたちのここの一番の集中力は群を抜いており、聞く力も育っている。今後もこの状況が継続できるよう取り組みを進める。	A	

教育 目 標 具 現	1 自由遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	【取組・反省】朝の子どもたちの受け入れ後、職員は率先して園庭に出て、子どもたちの遊びの相手をするを心がけている。子どもたちも身支度を整えると、進んで外に出て遊びを楽しんでいる。	A	先生たちが、朝から園庭で子どもたちと一緒に楽しそうに遊んでいる姿をいつも見させてもらっている。本当にはほほえましい光景だと思っている。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなびのびと遊びを楽しんでいる。	A	【改善策】子どもの発達段階や個々の成長に応じた声かけや支援を行い、一人ひとりの遊びをさらに深め主体性を育てたい。	A	
	2 集団遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりやを促したりする。	A	【取組・反省】屋内・園庭において、園児はマスクをはずして集団遊びを楽しむ姿が見られた。園児への働きかけも積極的にいき、子どもの遊びの幅を広げることができた。	A	「全職員で全園児を育てる」というスタンスが、遊びの中にも活かしている。学年・学級の垣根なく、子どもたちに関わっているのは精華幼稚園の先生たちのよさである。
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	【改善策】様々な活動ができるようになった反面、教師の多忙化につながってしまったことも事実であり、改善が必要である。	A	
	3 園行事に楽しく 参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている。	A	【取組・反省】子どもたちがより主体的に各行事に参画できるよう、一人ひとりを活かす場面や動線等を考え工夫しながら計画、実施、支援を行っている。	A	精華幼稚園から毎日園児の楽しそうな声が聞こえてくる。先生方も明るい笑顔で子どもたちに接しており、地域住民としても心温まる思いになる。保護者の方々が積極的にお手伝いしている姿も見られ、大変よいと思う。
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	【改善策】職員が行事に追われ、ゆとりがなくなり、多忙感が強くなるため配慮は継続しているが、この点は引き続き今後の課題。	A	

に向けて育てたい7つの子ども像	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	【取組・反省】本園は子どもの主体性を促しながら、「待つことができる、待ってあげられる」職員集団である。年齢や発達段階に応じて「ここまではやってあげるけど、続きは自分でやってみよう」と常に声をかけている。	A	子どもたちも保護者も多様化が進んでいる時代。子どもの気持ちや思い、それぞれの特性をしっかり捉え、対応していくことは幼稚園の責務である。今後も共通の基本姿勢をもとに個々の対応をしてほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A	【改善策】一人ひとりの「ここまでできる」を的確にとらえ、個に応じた声かけ、支援を行うことが今後も重要である。	A	
	5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	【取組・反省】「あいさつは教師から」を全職員で共有し、実践を継続している。また、朝と帰りの挨拶については、自分から進んで気持ちのよいあいさつをしたり、元気のよいあいさつを返したりする子どもが多い。しかし、まだまだ個人差はある。	A	小学校においても児童のあいさつが課題になっている、という話は聞いている。幼稚園、学校、家庭が同一歩調で取り組んでいくことが大切であることは言うまでもない。
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	A	【改善策】幼稚園での働きかけだけでなく、今後も家庭との連携の中で、気持ちのよいあいさつができる子を育てていく必要がある。	A	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	【取組・反省】精華幼稚園は、子どもの気持ちを考えながら、子どもの立場に立って、聞き上手で話し上手な教師となるよう心がけ対応している。基本的に、言葉遣いについては丁寧にお話ができる園児が多い。また、自分から話しかけようとする姿も数多く見られる。	A	言葉遣いについては、まず教師が模範となる姿を子どもたちに見せてほしい。また、これまで通り、丁寧に美しい言葉遣いができる精華幼稚園の子どもたちでいてくれることを願っている。
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、・・・」と話し出す。	A	【改善策】子どもが安心して話ができる環境づくりとコミュニケーションづくりを日常生活において日々継続していくことが重要であると考えている。	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇(経験・体験)の広がり求めて、積極的に園外保育に出かける。	B	【取組・反省】コロナ禍ではできなかった計画された各種行事を実施し、園児の経験・体験の場を設けることができた。しかし、職員アンケートからも、積極的な園外保育となると、「実施したくても時間の確保が難しい」という理由からB評価となった。	B	近隣の公園では、精華幼稚園の園児より他園の子どもたちを見かけることが多く、地域住民としてはやや残念な気持ち。忙しいとは思いますが、計画的な園外保育を行い、近隣公園を活用してほしい。
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がり、確かな歩みを見せている。	B	【改善策】積極的な園外保育は十分に可能である、とは言え、経験・体験を重視しながらの行事の精選は困難な状況が続いている。引き続き、要検討事項である。	B	

※【取組・反省】【改善点】は、【教師の営み】と【子どもの状況】の両方を合わせた内容について記載しています。

【学校関係者評価委員会】

保護者代表:2名 PTA役員代表:2名 後援会代表:2名 地域住民代表:2名 学識経験者:1名